

東京医科歯科大学医学部附属病院
 「みんなの健康を育む病院だより」


オアシス



病 院 長 挨 拶

木原和徳

小さな心配りとやさしさの工夫

平成26年4月より病院長に就任しました。早速、患者さんに「体を大事にしてください」といわれました。長年、本院と患者さんにお世話になってきました。

ご恩返しをして去る年齢になったと実感していますが、ご恩返しの方法を探しながらの毎日です。このオアシスは、文字通り患者さんと医療従事者の心が和む、そして現場の力が湧き出る泉に例えられると思います。人の脳には、つらい人の役に立つことに喜びを感じる神経回路が大なり小なり入っていると思います。不満の広がる職場では、良い医療ができるわけありません。やりがいと(小さな)幸せを日々感じられる職場にいられたら最高です。たくさんの職員の心意気で本院が成り立っていることを、就任して改めて感じています。

INDEX

- 1 病院長挨拶
- 2 新旧病院長対談
- 3 第1回 Patient Safety Award 優秀賞を受賞しました
- 4 新任科(部)長・センター長のご紹介
- 5 がんレクチャー、糖尿病教室、もの忘れ予防教室
- 5 奨学寄附金・大学基金のお願い
- 6 お医者さんの健康法／不整脈センター
- 7 病棟配膳(カレーランチ)レポート／形成・美容外科
- 8 ハート・キャップのご案内
- 8 セカンドオピニオン外来、献体のご紹介





新 旧

病・院・長・対・談



木原
新病院長

患者さんに
寄り添う病院をめざします

❖ 田中 雄二郎 前病院長
Yujirou Tanaka
医療・国際協力担当理事・副学長

❖ 木原 和徳 新病院長
Kazunori Kihara
泌尿器科教授

平成26年4月より泌尿器科の木原和徳教授が、当院の病院長に就任しました。田中雄二郎前病院長は医療・国際協力担当理事・副学長として当院を支えます。お二人に今後の抱負について聞きました。

木原 病院長になって心がけていることは「小さな心配り」です。患者さんへのやさしさを病院に入った瞬間に感じられる病院にするために、小さなことから少しずつ「心配り」や「やさしさの工夫」をしていこうと思います。

田中 それは素晴らしいことですね。ハードルの高い難しい目標を掲げるよりも、できるところから、患者さんに伝わるように改善することは、とてもいいアプローチだと思います。私も病院長時代は、病院の建物に新しい汚れや傷を見つけただけで、自分が傷を負ったように痛みを感じました。

木原 私は病院長になってから血圧が上がってしまいました。それで減塩を心がけるようにしたら正常になって…この経験がきっかけで病院食の重要性も感じています。



田中
前病院長

患者さんが
笑顔になる改善を!

田中 病院の食事は、入院患者さんが元気に回復するためにとっても大切ですね。当院の病院食はメニューも豊富でかなり高水準だと思いますが、さらに上のレベルをめざしていただきたいですね。

木原 はい。患者さんが退院してからも「こんなおいしい減塩食や低カロリー食があるのなら、自宅でも作ってみよう!」と思ってもらえるように、おいしく元気になる病院食をこれからも積極的に開発したいと思います。

木原 私が考える目標は、「患者さんに寄り添う病院」です。その点、まだ少し固い空気が病院内にあるように思います。

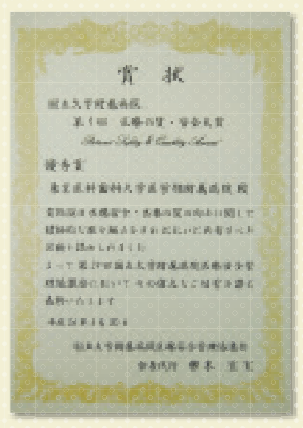
田中 患者さんの声はもちろんですが、病院スタッフの声も聞いて、患者さんのために働きやすい環境づくりをする必要がありますね。

木原 病院スタッフが笑顔で患者さんに接することができるように、現場の声を大切に、それをどんどん取り入れて改善していきます。

田中 木原先生は、患者さんの痛みが少ない手術や治療を心がけて実践されてきたドクターで、グローバルな視点も持ち、アイデアマンで思考が柔軟ですから、「患者さんの寄り添う病院」という目標は、きっと実現されると期待しています。

木原 あまり重圧をかけられると、また血圧が上がってしまいましたが、頭を垂れて足元を見て、重箱の隅をつつきながら、できるところから少しずつ実行してまいります。田中前病院長には、理事・副学長として引き続きご指導をお願いします。

当院が「第1回 Patient Safety Award 優秀賞」を受賞しました



当院では、日頃から医療の安全・医療の質の向上に関して、積極的な取り組み行っております。その功績が評価され、第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会において、第1回医療の質・安全大賞において「優秀賞」を受賞しました。受賞した取り組みは、「血管造影・IVR（血管内治療）」「内視鏡検査・治療」を行う前に、担当するスタッフ全員で行う『安全チェックリスト』を開発し、実際にそのリストを活用して、安全チェックを平成25年4月より導入したことについて。ここ数年で急速に手術件数が増えている「血管造影・IVR（血管内治療）」「内視鏡検査・治療」をより円滑に、より正確に行うために、循環器内科、消化器内科、放射線部、光学医療診療部などの関係部署医師・看護師・技師・リスクマネージャーでワーキングを結成して、無理なく処置の流れにあわせて、それぞれのチェックリストを作成し、術前の短い時間でチェックできるようにしました。当院安全管理対策室では今回の受賞を糧に、さらなる医療安全の確保に努めてまいります。



新任科(部)長・センター長のご紹介

当院の診療科(部)やセンターに新たに14人の科長・センター長が就任しましたので、患者さんへのご挨拶・メッセージをご紹介します。

医療連携支援センター
泉山 肇 センター長



当センターには、地域連携室(地域医療機関との患者さんの紹介・逆紹介に対応)、患者相談室(患者さんやご家族の相談や苦情に対応)、医療福祉支援室(医療福祉制度の活用や退院支援に対応)があり、安心して来院いただけるよう取り組んでおります。是非ご利用ください。

快眠センター
宮崎 泰成 センター長



睡眠は「心と身体が出会う場所」です。当センターでは睡眠時無呼吸症候群を含む睡眠障害に関して内科精神科が連携して治療を行っています。さらに2013年から本学歯学部附属病院に快眠歯科外来が開設され、睡眠時無呼吸症候群のテーラーメイド治療が可能となっております。

看護部
川崎 つま子 部長



病院の理念を表現するために、看護部も積極的に組織に貢献してまいります。そのためには看護部が取り組むべき課題を明らかにして、様々な改革に挑戦したいと考えます。また、チーム医療の一員として、その役割を果たすのできる人材の育成にも力を入れてまいります。

光学医療診療部
大塚 和朗 部長



内視鏡技術の進歩により、胃や大腸、そして深部小腸まで全消化管に対応することが可能になってきました。内視鏡は、観察して診断するだけでなく治療手段としても重要です。私どもは最新の内視鏡を用いて、皆様により良い医療を提供してまいります。

耳鼻咽喉科
角田 篤信 科長



耳鼻咽喉科の扱う範囲は非常に広く、めまい、耳鳴り、難聴、鼻の病気から声嘎れや嚥下障害、がんなどの腫瘍まで多岐にわたります。それぞれのスペシャリストが6つの専門外来で患者さん一人一人に適切な医療を提供します。

小児科
森尾 友宏 科長



小児科全般の疾患に対応すると共に、血液・腫瘍・免疫・感染症、アレルギー、循環器、神経、内分泌・代謝、新生児などの専門領域において先端的な診療に取り組んでいます。お子さんたちを成長発達の面からも全人的に支援しつつ、最高レベルの診療を提供します。

神経内科
横田 隆徳 科長



神経内科は脳卒中、認知症、てんかんのコンディショニングから、様々な神経・筋神経難病など幅広く数多くの疾患を診る診療科です。丁寧な診察と適切な検査によって正確な診断と説明を行い、1人1人の患者さんに最高の治療を提供したいと思っております。

腎臓内科
内田 信一 科長



腎臓内科では、健診等で尿検査の異常や腎臓機能の低下を指摘された時、その原因を調べ適切に治療します。また高血圧症、嚢胞腎等の遺伝性の腎臓病、糖尿病や膠原病などから腎臓機能が悪化した場合も当科で診療いたします。血液透析や腹膜透析も行っております。

総合診療部、総合教育研修センター
高橋 誠 部長



医師臨床研修および専門研修を通じて質の高い医師を養成するとともに、病院職員に対する多職種連携研修の確立・普及を目指した活動を展開し、当院の医療水準のさらなる向上を図ることで、社会に貢献する研修センターを目指したいと考えています。

大腸・肛門外科
植竹 宏之 科長



大腸・肛門疾患に対してトップレベルの治療を行っています。腹腔鏡手術など低侵襲治療や抗がん剤と手術を組み合わせた治療など、患者さん一人一人に最適な治療を選択します。医師は多くの学会・研究会で発表を行い、知識や技術を常に最新のものとしています。

頭頸部外科
角 卓郎 科長



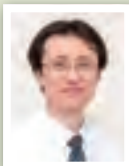
当科の治療対象は頭頸部腫瘍全般です(咽頭癌、喉頭癌、舌癌、口腔癌、耳下腺癌、顎下腺癌、甲状腺癌、上顎癌、聴器癌およびこれらの部位の良性腫瘍)。特に頭蓋底腫瘍の手術治療や咽頭・喉頭の表在癌に対する内視鏡的手術では豊富な経験を有しています。

乳腺外科(平成26年7月より)
中川 剛士 科長



乳癌は外科手術だけで治す時代ではありません。大病院ならではの、集学的治療を率いることが乳腺外科の使命と考えます。放射線科、形成外科、病理だけでなく、緩和医療、遺伝相談、妊孕性等あらゆる方面から患者さんとご家族のサポートをしていく所存であります。

放射線治療科、放射線部
吉村 亮一 部長



放射線治療は医師、技師、看護師の歯車が噛み合わないとい前に進まない、しかし合えば未知数の働きを見せる不思議な診療部門です。我々は力を合わせ、医科歯科ならではの放射線治療を追求していきたいと思っています。ご意見、ご要望、ご質問など何でもご連絡下さい。

薬剤部
高橋 弘充 部長



2014年4月より東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部に着任いたしました。患者さんに安全と安心をお届けできるお薬のコンシェルジュをめざして、病棟薬剤業務の主役である病棟薬剤師の育成と専門薬剤師の養成を中心に薬剤部一丸となって尽力して参ります。



セミナー&教室のお知らせ

セミナーの詳細は、1階総合案内近くにも掲示しています



がんレクチャー

腫瘍センターでは、「がん」に関する情報を、がん医療に携わる専門スタッフがテーマに基づいてお話しする「がんレクチャー」を、奇数月の第2火曜日午後1時から開催しています。がん患者さん、ご家族、がんに関心のある方、当院におかたかりでない方でも参加できますのでお気軽にご参加下さい。事前申し込みは不要、参加費も無料です。今後の開催予定は、9月9日「がんと口腔ケア」、11月11日「がんの化学療法と副作用対策」、1月13日「がん暮らし」、3月10日「早期からの緩和ケア」の予定です。詳細はがん相談支援部門にお問い合わせください。



糖尿病教室

糖尿病・内分泌・代謝内科では、毎週水曜日午後2時より、「糖尿病教室」を開催しております。糖尿病患者さんのための食事療法、治療薬の知識、血糖の測り方、慢性合併症などについて、医師・看護師・管理栄養士などがわかりやすくお話しします。詳しいことは、ご案内窓口にお問い合わせください。

もの忘れ予防教室

老年病内科では『もの忘れ予防教室』を開催しています。「もの忘れ」に興味がある方でしたら、どなたでも受講できます。開催予定日は、9月25日「計算」、10月23日「記憶」です。定員が10名で、事前のお申し込みが必要です。詳しいことは、ご案内窓口にお問い合わせください。なお一度受講された方のお申し込みはご遠慮いただいております。



奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部 産学連携室 産学連携掛
TEL: 03-5803-4927 FAX: 03-5803-0179

東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために次のような「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円です。本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

●国際交流事業

留学生の支援・学生の海外派遣の推進・海外拠点の支援・外国の大学などとの教育・研究協力・交流の支援

●学生育成奨学事業

優秀な学生への奨学金の充実・勉強環境の充実

●その他の事業

産学連携・社会貢献活動の支援

問い合わせ先

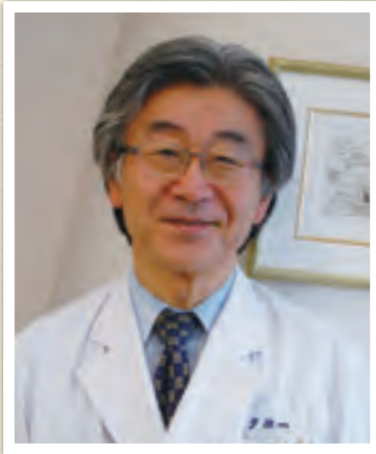
東京医科歯科大学基金室
TEL: 03-5803-5009 FAX: 03-5803-0273



お医者さんの健康法

第1回

たくさんの病気を克服して今は元気です!



周産・女性診療科
久保田 俊郎 教授
Toshirou Kubota

私はこの病院の中で最も患者さんの気持ちがわかる医者かもしれません。なぜなら、病気をたくさん経験しているからです。高血圧、痛風、緑内障、転んで左手じん帯切断、そして2年前には突然のめまいと吐き気が続く急性前庭神経炎という病気にもなりました。当然この病院にも入院経験があり、お世話になっている“主治医”もたくさんいます(笑)。

病気をして患者になってみると、自分の病気がいつ回復するのかが、すごく気になります。病気というトンネルからどうすれば抜け出せるのか、患者さんは常にストレスにさらされていることを身をもって知り、この経験を生かして、診察のときは少しでも患者さんに明るく前向きになってもらえるよう心がけています。

私の専門は女性の健康なので、どんな食品が女性の健康に貢献するのか、どうすればストレスを緩和できる

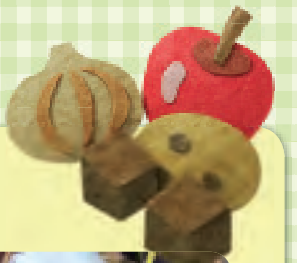
のか、研究を進めるかたわら、管理栄養士さんによる栄養指導も取り入れて、食事を中心とした生活指導も行っています。

これは私自身が1日8千歩以上を歩くように心がけたり、お酒は1合くらいまでにとどめて週に1日は休肝日を作ったり、炭水化物を減らして野菜と魚中心の食事にする事で、健康を取り戻した経験が影響しています。

最近は忙しくて自然に親しむ時間がありませんが、久しぶりに妻と映画『アナと雪の女王』を観て感動。とてもいい気分転換になりました。



患者さんと病院スタッフが笑顔で交流



病棟配膳(カレーランチ)レポート



臨床栄養部は毎月「病院配膳(カレーランチ)」を実施しています。これは月に一度、患者さんと病院スタッフが、笑顔で楽しくお話ししながら、当院自慢の「手作りカレー」を食べる集いです。ふだんは病室のそれぞれの場所で食べる患者さんたちですが、この日はみんなで一緒に向かい合いながら、厨房職員の愛情こもった野菜たっぷりの素朴でおいしいカレー、サラダ、そしてデザートフルーツ寒天などの料理を囲んで食べると、自然に話が弾み、みんなとてもいい笑顔になります。



臨床栄養部スタッフが鉄人シェフのもとで修業?!

東京医科歯科大学医学部附属病院では、入院患者さんに早く笑顔で元気になっていただくための病院食づくりを常に心がけています。その一環として、病院食づくりや栄養指導を担当する臨床栄養部のスタッフ9人が、2014年7月10日、日本橋ゆかりを訪問し、『料理の鉄人』でアイアンシェフに輝いた野永喜三夫さんのもとで「修業」をしました。

約2時間にわたり、野永さんより、料理の基本姿勢、食材選び、食材の切り方、食材の加熱方法、食器の使い分け、盛り付け、旬の野菜と豆乳を合わせたスープ、非常食用缶詰を活用した料理、食材の仕入れ、食材の管理など、食の質問と最新食材を取り入れた高齢者向け、糖尿病などの患者さん向けの新しいメニューなどについて、丁寧に指導していただきました。

参加した臨床栄養部スタッフは、「料理は科学ですね!プロの料理人のおいしい料理を作る探究心に大きな刺激を受けました。私たちが患者さんに喜ばれる食事をめざし、さらに勉強します!」と目を輝かせていました。



診療科の紹介 1

不整脈センター

平尾 見三 センター長
Kenzo Hirao



脈の乱れ、動悸・息切れ・めまいは不整脈の症状かも…

脳卒中の最大の原因といわれる心房細動の患者数は、全国に100万人以上。心房細動は「心拍の乱れによって、心臓内の血流が悪くなり、血の塊が発生して、それが血管内を流れて、脳の細い血管を詰まらせて、脳卒中や脳梗塞を起こしてしまうので、心房細動は見逃さない病気です」と説明する平尾見三・不整脈センター長。脳卒中や脳梗塞にならないためにも、脈が速く、動悸・息切れ・めまいを感じるときは、早めに病院に行きましょう。当院には不整脈を専門に治療する「不整脈センター」があり、全国でも有数の治療実績を持ち、薬による治療からカテーテル治療まで、患者さんの症状に合わせて適切な治療を行います。

診療科の紹介 2

形成・美容外科

岡崎 睦 診療科長
Mutsumi Okazaki



「顔のゆがみは治らない」と、あきらめないで!

「顔にけがをしたり、顔・首・脳の腫瘍摘出後、ウイルス感染後の後遺症、原因不明などで、顔の一部が思うように動かない、顔がゆがんでしまった…そんな場合は、形成・美容外科にご相談ください」という形成・美容外科の岡崎睦診療科長。平成26年2月には、顔のゆがみの原因になる「顔面神経麻痺」の治療技術法を日本形成外科手術手技学会で発表し、最も優れた賞として表彰されました。「『自分の顔のゆがみは治らない』とあきらめないで、形成・美容外科のスタッフと一緒に、笑顔を取り戻しましょう」。岡崎先生をはじめとする形成・美容外科スタッフは、患者さんを笑顔にする医療を実践しています。



INFORMATION



ハート・キャップのご案内



腫瘍センターでは、化学療法を受けられた患者のA子さんから『脱毛に悩まれている方に使ってほしい』と、手作りの帽子をいただきました。Aさんは当院で治療を受けた際に、ご自身で肌に刺激の少ないかぶりやすい帽子をお作りになりました。

元気になってからも、入院中や治療中に仲良くなり、励まし合った仲間の患者さんのことを思い出し、「自分と同じような状況で帽子が見つからなくて困っている患者さんのために…」と、手作りの帽子を寄付してくださっています。

「入院中、治療中は心に余裕を持つことが難しいですが、おしゃれを楽しむことで少しでも気持ちが前向きになれば…」というAさんの温か



い心遣いが、たくさんの患者さんを励まし、元気にしています。1人の患者さんのご厚意による非営利の活動ですので、販売しているわけではありません。数に限りがありますので、すぐにお渡しできない場合がありますが、ご了承ください。ご希望の方は、3階腫瘍センター・がん相談支援部門でお渡ししています。お気軽にお問い合わせください。編み図もご用意しています。

セカンドオピニオン外来とは



セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかられている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。

問い合わせ先

医療支援課セカンドオピニオン外来受付担当
TEL : 03-5803-4568 FAX : 03-5803-0119

献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL : 03-5803-5147

相談窓口の場所が変わりました

当院のご案内・相談窓口の場所が、入り口左側のよりわかりやすい場所に移動しました。病院の中でわからないこと、困ったことなどがあれば、こちらにご相談ください。



水色のエプロンが「案内係」です

当院1階に水色のエプロンをつけたスタッフが「案内係」のボランティアスタッフの皆さんです。来院された患者さんのサポートをするために、無償でお手伝いしてくださっています。わからないことや質問などがありましたら、いつでもお声掛けください。



写真は医療連携支援センターのスタッフがエプロンを着用して撮影しました

迷ったら表示板をご利用ください

各所に建物の名称を表す表示板を設置しましたので、ご利用ください。



東京医科歯科大学医学部附属病院 広報誌「オアシス」6号
発行 東京医科歯科大学医学部附属病院
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学医学部附属病院総務課
デザイン・SOYA
編集・宇山恵子
撮影・田山達之

オアシスについてのご意見・ご感想は syomu2.adm@tmd.ac.jp までご連絡ください。本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。